

平成30年度

# 公立刈田総合病院の経営状況

— 医師が増加し、診療体制が充実しました —

平成30年度は、循環器科医師が1名増加し3名体制となり、心臓カテーテル検査や手術等の実施体制が強化され、また、これまで常勤医師がいなかった耳鼻咽喉科に、1名の常勤医師が採用となり、医療提供体制の更なる充実が図られました。

事業運営にしましては、平成28年度に策定した公立刈田総合病院新改革プランに基づき、「救急機能」「回復期機能」「健診事業」「透析医療」の4つの役割を軸にした医療の提供を行うとともに、診療収入の確保並びに経費削減による経営効率化のため、病院長を中心に職員全員が経営改善活動推進に向けた取組を行いました。

医療機器等の整備では当院独自の医療機器購入基準に基づき、デジタルX線画像処理装置、眼科用手術顕微鏡、超音波診断装置を近代化のために更新するなど、住民の皆様へ充分な医療の提供ができる環境を整えました。

また、病院の運営状況につきまして、患者数は平成29年度と比較して、延べ数で、入院が3,180人減少し65,348人(うち、地域包括ケア病棟は9,997人(延べ人数に占める割合は15.3%)、回復期リハビリテーション病棟は10,282人(同15.7%)、外来が1,755人減少して127,179人となりました。前述の新改革プランに掲げる目標患者数に対する達成率は、入院で89.6%、外来で97.5%となり、外来では95%以上を確保したものの、入院については90%以上を確保できませんでした。

収支状況につきましては、入院収益が3,267万円の減収、外来収益が860万円の増収となり、病院事業収益総額では、50億5,561万円となりました。一方、病院事業費用総額は55億9,617万6千円となり、結果、本年度の収支差引は、5億4,056万6千円の純損失となり、現金支出を伴わない減価償却費、資産減耗費、長期前受金戻入及び特別損益等を除いた実質的な現金収支では、1億3,873万1千円の赤字となりました。

依然として病院経営は厳しい状況が続いております。今後とも、住民の皆様が安心して医療を受けられるよう、診療機能を充実させると共に、職員の資質向上を図り、より一層収入の確保、経費の節減に努めることにより、経営の健全化を目指してまいります。

## (資金不足比率の公表について)

資金不足比率は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、公営企業において公表することとされている財政指標で、これが経営健全化基準以上となった場合には、経営健全化計画の策定などの行財政上の措置が講ぜられます。

算定基礎数値である、平成30年度の流動負債額は10億1,507万9千円、流動資産額は10億4,662万8千円で、流動資産の額が流動負債の額を上回っており資金不足はありませんでした。

## 資金不足率の公表について

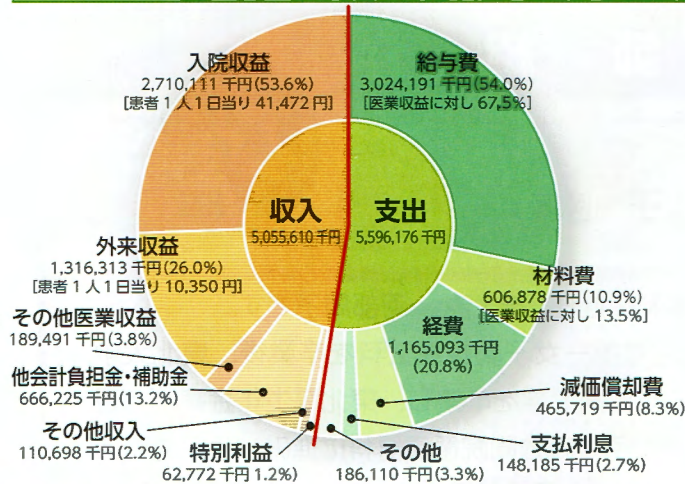
平成30年度決算における流動負債及び流動資産残高比較

流動負債 < 流動資産 = 資金不足無し  
 1,015,079千円 < 1,046,628千円

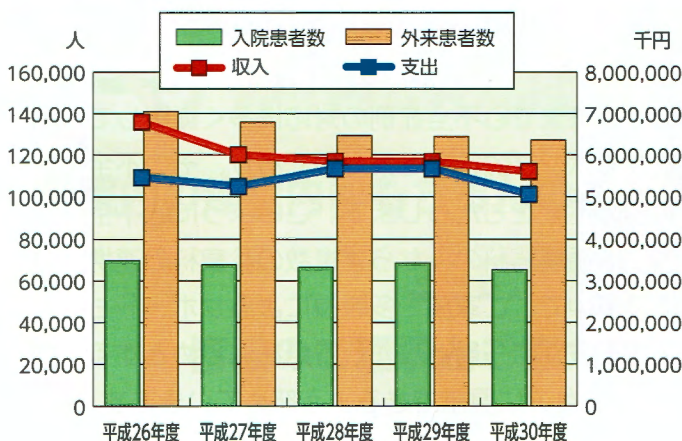
特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
公立刈田総合病院事業会計	-	20.0%

(備考)  
 ・資金不足比率 =  $\frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$   
 ・資金不足額 = (①流動負債 + ②建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 - ③流動資産) - ④解消可能資金不足額  
 ※算定結果が「△」となる場合は、資金不足がないことを示します。  
 ※①の額は流動負債から流動負債の企業債を差し引いた額です。  
 平成28年度決算分で経過措置が終了したためリース債務利息、引当金は差引かなくなりました。  
 ※②、④額については、当病院には該当額がありません。  
 ・事業の規模 = 営業収益の額(医業収益) - 受託工事収益の額  
 ※受託工事収益の額については、当病院には該当額がありません。

## 平成30年度 収入・支出



## 年度別状況



## 平成30年度 診療科別患者数

